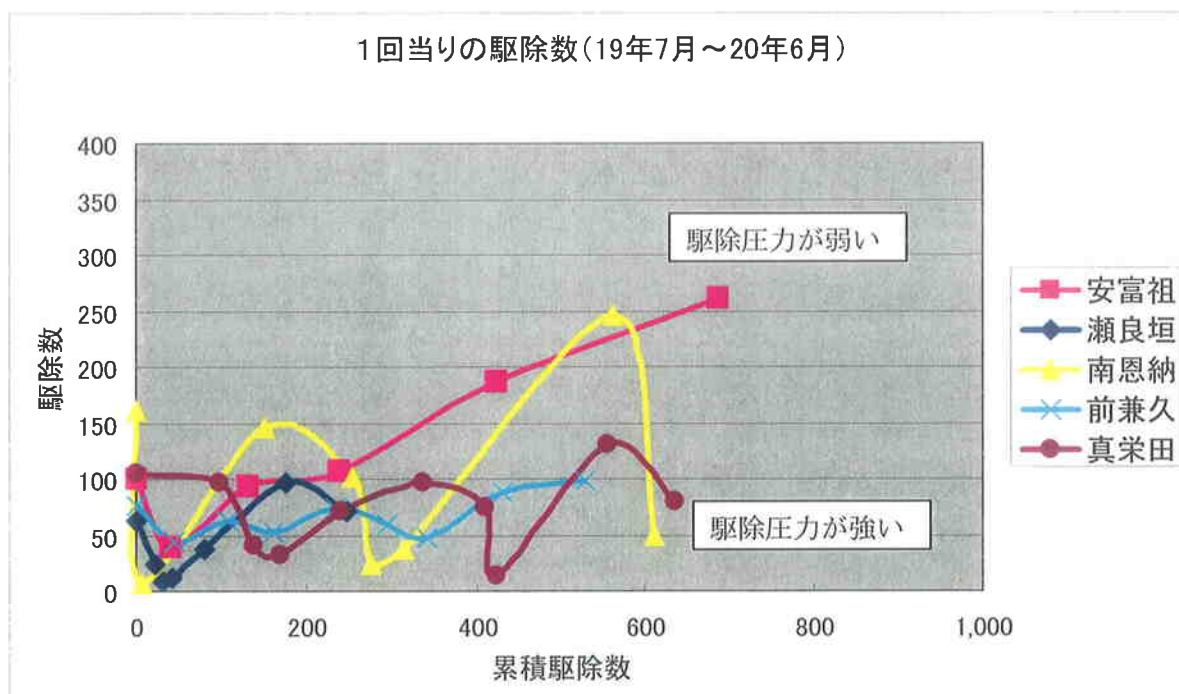
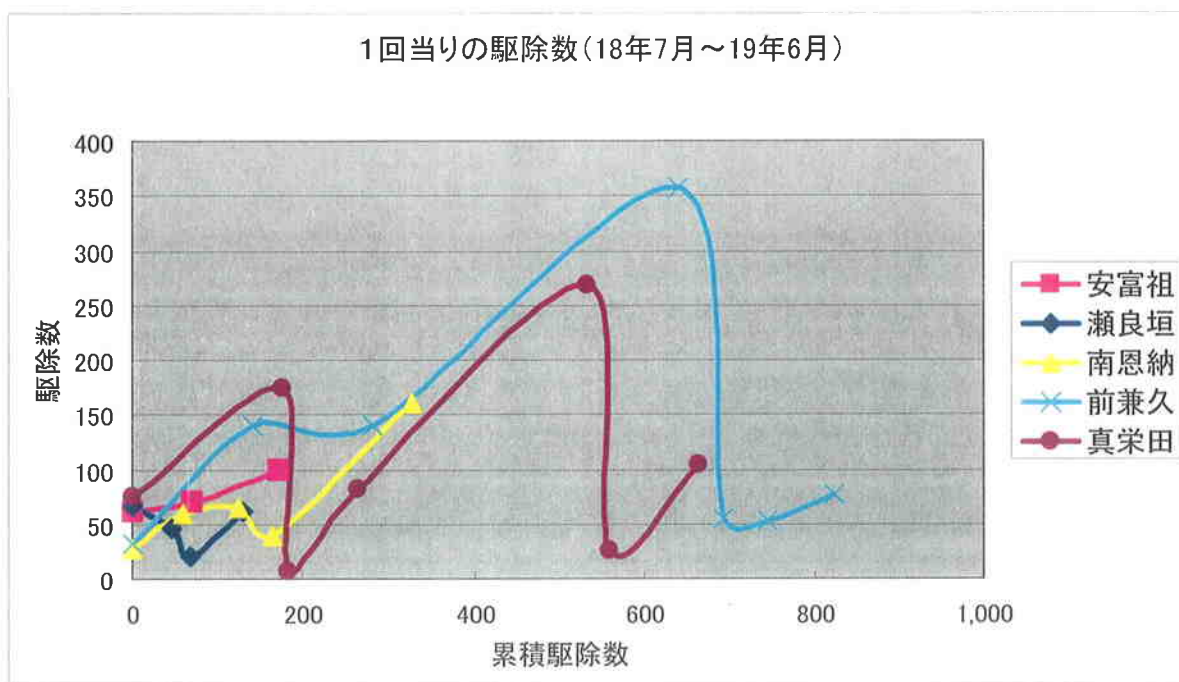


5 地先別の1回あたりの駆除数

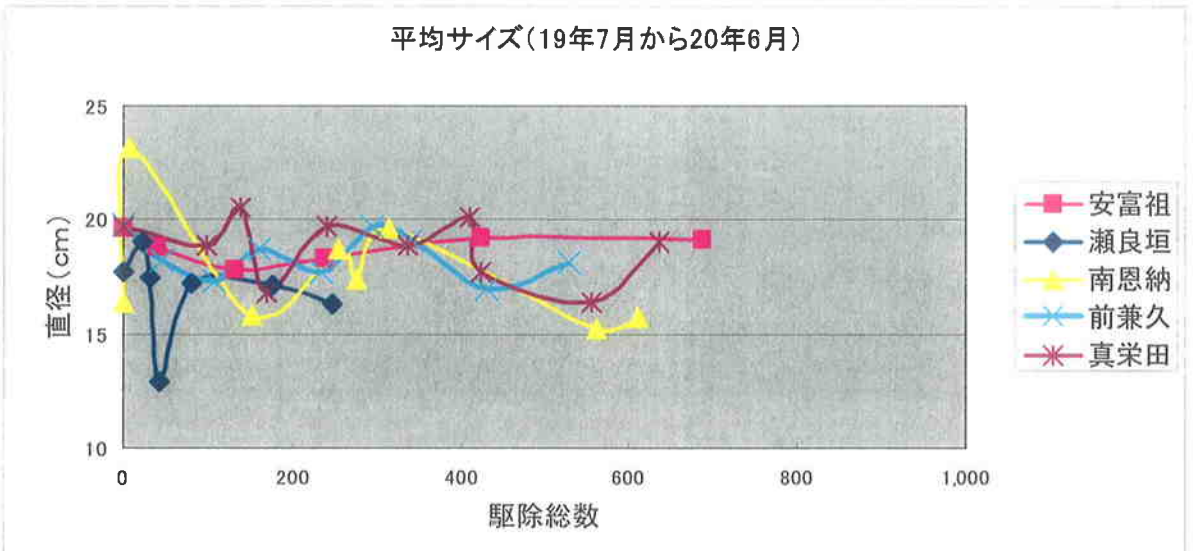
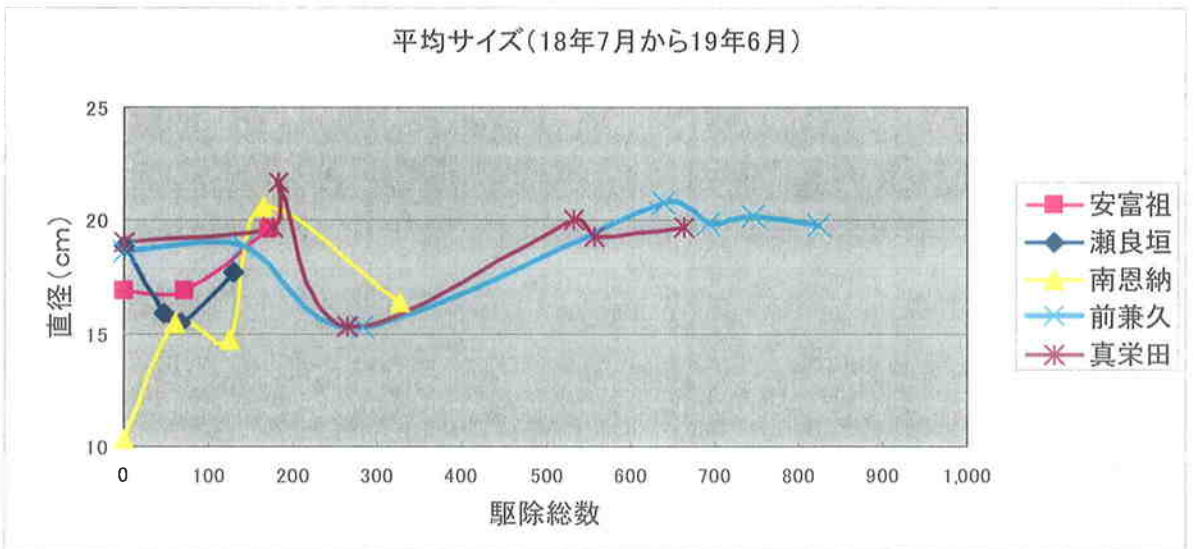
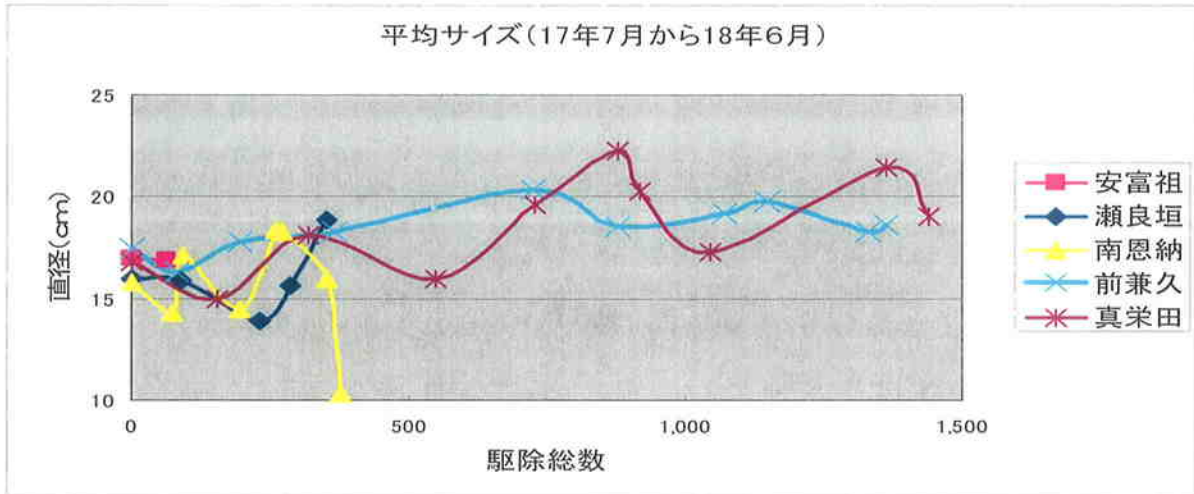
これは、群れの大きさと駆除圧力を見るのに役立ちます。駆除圧力が高い場合には、駆除数の変動が大きくなる傾向にあります。その年の群れが大きい場合には、緩やかに下がっていきます。群れが小さい場合には、急激に減少します。

今年は、南側の真栄田と前兼久海域で減少し、北側の安富祖海域で増加しています。安富祖海域の群れは、駆除数より多い可能性があります。



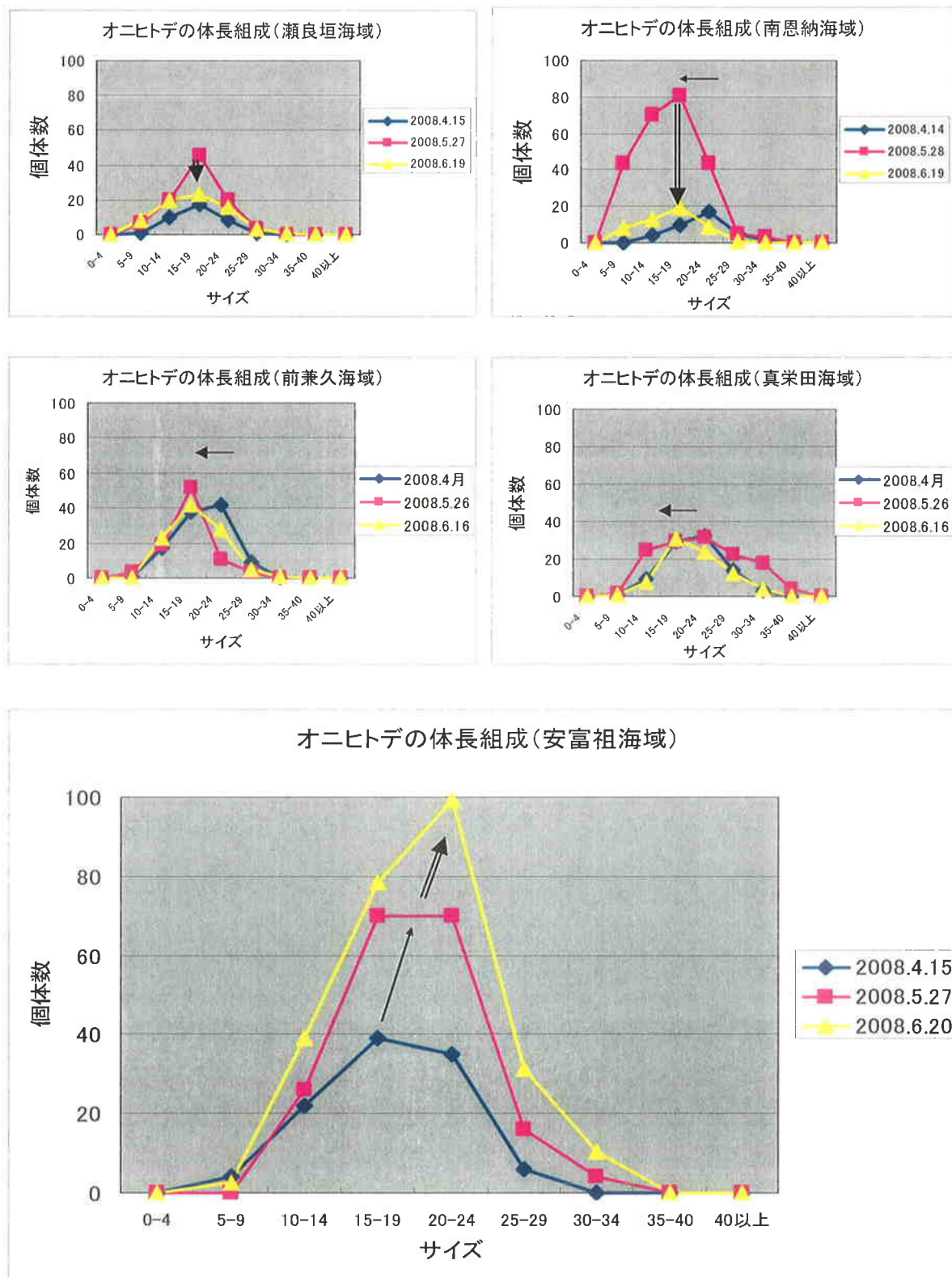
7 地先別平均サイズ

オニヒトデは、時間とともに成長します。駆除圧力が高いとサイズは小型化しますが、駆除の間隔が長いと、その間に大型化してしまいます。駆除数が少ない海域でも定期的に駆除することが重要です。



6 オニヒトデの体長組成

例年は、4月から毎月駆除を行うと、個体群の規模とサイズが小さくなり、駆除効果が見られます。今年の瀬良垣、南恩納、前兼久、真栄田の各海域では、3～4回の駆除で効果が出ています。一方、安富祖海域で個体群規模とサイズの大型化が止まっていません。これは、深みに駆除した分以上のオニヒトデが残っている可能性が高くなります。

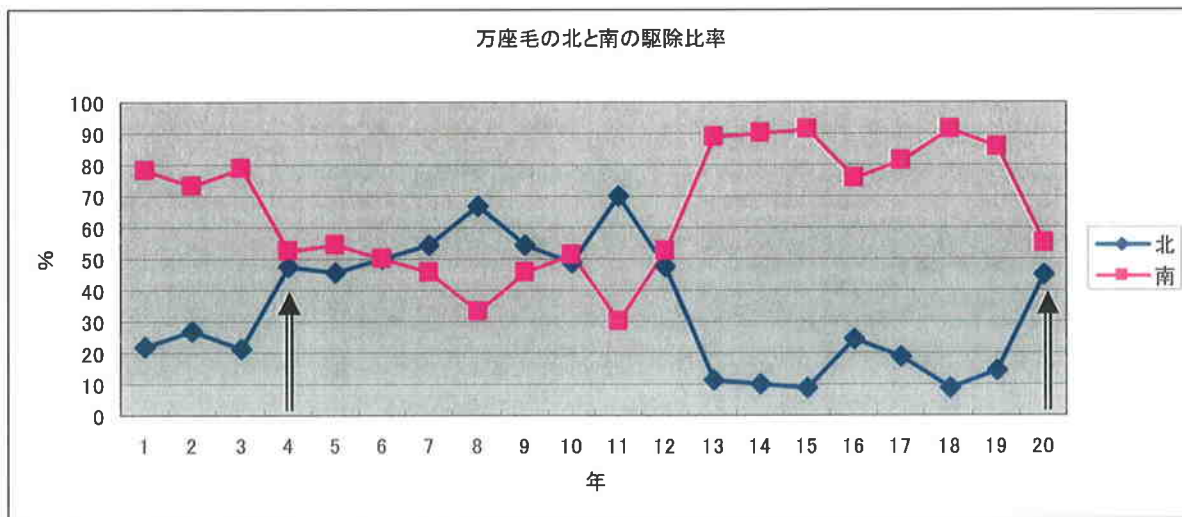


9 海域ごとのオニヒトデの変動

恩納村海域の潮汐流は、南から北側へゆっくりと流れています。また、真栄田岬周辺と安富祖-瀬良垣地先の2箇所で潮の流れが弱いところがあります。南側は、慢性的にオニヒトデが発生する傾向があり、北側は、約12年周期で大発生を繰り返しています。北側の大発生は、サンゴの回復する周期と同調している可能性が高いと思われます。

昭和59年(1984年)の大発生は、瀬良垣地先で最初に見つけれ、その後各海域に拡散し、サンゴに大きな被害を与えました。サンゴが南側海域から回復するにつれ、オニヒトデも後を追うように北側への拡散と大型化が進み、平成4年には、駆除海域が広がったことによる取り残し生じました。その2年後の平成6年には、北側海域を中心とした大規模な春上り集団が見られましたが、その駆除も不十分なものとなり、4年後の平成8年に北側海域を中心とした大発生が起こっています。

今年のオニヒトデの状況とサンゴの生息状況と合わせて見ると、平成4年に近い状況といえます。



10. 今後の駆除予定

① 重要ポイントの集中駆除

オニヒトデは、幼生の拡散により、主に駆除される海域が変動します。恩納村では、真栄田地先で慢性的に発生し、南恩納地先を経由して安富祖・瀬良垣地先に入り込み、大発生が起こります。

そこで、産卵期前に、オニヒトデ発生源である真栄田地先の**真栄田グチから南側**、南恩納地先の**万座毛～ガラサージ岩**、瀬良垣地先の**シパンダ～瀬良垣漁港**、安富祖地先の**黙想の家～みゆきビーチ**までを重点的に駆除します。

② 恩納村海域オニヒトデー斉駆除

今までの駆除体制及び規模では、十分に駆除できないので、各リゾートホテル、恩納村ダイビング協会にボランティアによる駆除を依頼し、「恩納村海域オニヒトデー斉駆除」を行います。ちなみに、一斉駆除は、平成17年以来3年ぶりです。皆様のご協力をお願いします。

③ 日程

7月7日(月) 万座毛以南の海域

7月8日(火) 万座毛以北の海域